

令和3年7月 学校長だより 高千穂高校

令和3年7月13日

悲しくて花を見れば 花はともに悲しみ
うれしくて花を見れば 花はともによろこび
こころ荒れた日に花を見れば 花は静かに咲く

校長 佐伯浩美

今年も各地で豪雨による被害が報道されている。例年より早く入った梅雨は、まだ明けない。西臼杵の山々は、大丈夫だろうか。激しい雨が、降るたびに心配になる。

上記は、星野富弘さんの「あなたの手のひら」という著書の中の“つわぶき”という詩である。ご存じの方もいると思うが、星野さんは中学校の体育の先生だった。先生になった2ヶ月後体操部の指導中、鉄棒から落ちて重傷を負い、手足の自由を失ってしまった。9年にもおよぶ入院生活の間に、口にくわえた筆で水墨画やペン画を描き始め、その絵に詩を添えるようになった。この詩には、10月頃に黄色いきれいな花を咲かせるつわぶきの花も一緒に描かれている。

今、情報化が急速に進んでいる。ネット社会が生活に定着し、便利な世の中になってきた。情報通信を活用した教育がこれからさらに加速するだろう。3年特進クラスが英語の授業の中で活用する「スマートレクチャーコレクション」は、県内でもトップの学びで英語力を高めている。生徒が英作文を海外の大学生にメールで送り、大学生から添削された英作文が送り返えされてくる学びである。この授業をT-LABO オープニングで実演した。「今までの受験のための英語から、これからは可能性を広げる英語」という英語担当の福嶋先生言葉には、説得力があった。他教科でも本校の充実したICT機器を使った授業が展開されているが、さらに生徒の学力が向上する工夫した取り組みが期待される。

一方、ネット絡みのトラブルも社会で多発している。SNSによる匿名での誹謗・中傷は、後を絶たないという。考えなしの言葉の書き込みが、人を傷つけ苦しめている。人と人とが直接顔を合わせないですむ社会になってきた。そのことが便利な反面、いろいろな問題を引き起こしている。

優しいという字は、人が憂うと書く。友達が憂い悲しんでいるとき、周りにいる人が声を掛けてくれたり、そっと寄り添ってくれれば、気持ちが楽になる。それが優しさではないだろうか。人に思いやりの気持ちを持ち、心の優しい人に育って欲しい。心がすさんだり、自分を失いかけたときに、この詩のように道ばたに、咲く花に話し掛けてほしい。きっと気持ちが和らぎ、元気が出てくると思う。

短歌 書道	第14回恋人の聖地「綾町・照葉短歌賞」	最優秀賞 鳥越 秋穂 (2年3組)
	第39回宮崎県高等学校席上揮毫大会	優秀賞 佐藤 かれん (3年3組)
		優秀賞 甲斐 暉奈 (2年3組)
		優秀賞 佐藤 心音 (2年4組)
		優秀賞 真鍋 るな (2年4組)